

## 2 フォーラム

### (アジアのリーダー都市ふくおか!プロジェクトトリレーフォーラム)

将来像を検討するにあたり、切り口や、視点・論点になるのではないかと考えられるテーマを設定し、そのテーマに造詣が深い多彩なゲストを迎え、全11回のフォーラムを開催しました。

多彩なゲストに異なる立場から、課題と捉えている点やその解決の道筋、福岡市に抱く希望など、活発な意見交換を行って頂きました。

※全11回の開催概要は、第4部(139ページ)をご参照下さい。

- まちを変える原動力や挑戦について
- 高齢者も子どもも活躍できるまちづくりについて
- ユニバーサルシティ福岡の実現について
- よりよい都心づくりについて
- 環境共生型の都市のあり方について
- クリエイティブなまちや人材について
- スポーツの幅広い活用について
- おもてなしのまちづくりについて
- アジア・世界の中で、という視点について
- 多様な働き方や様々な挑戦の実現について

#### ●まちを変える原動力や挑戦について

- ▶まちづくりの話し合いにたくさんの世代の人が入ってきて、思いを共有することが一番大事。
- ▶企業誘致のネックの検証とともに、熊本や北九州も含めた広い視野で考えることも必要。
- ▶今の福岡は個の力はあるのに都市の顔が見えない。これまでの価値を変えるような活動が街の活力を生む。動くんなら動けよ、という感じ。
- ▶今はぬるさが街にある。ぬるさを熱さに変えて外に飛び出すように仕向けないと、単なるいい街になる。
- ▶自分たちで未来を考えるのが先進国。「どうなるか」ではなく「どうするか」が大切。
- ▶摩擦を恐れずに挑戦する「出る杭力」がある個人・企業を大切にすることが必要だ。
- ▶海外の雑誌が高評価している福岡の住みやすさをもっと追求していくこともいい。
- ▶福岡市は2000年から10年にかけて、5年ごとに6万人ずつ伸びている。  
単純にトレンド集計すると20年には158万人になる。  
25年後の人口は160万人とみて都市設計する必要があると考える。

## ●高齢者も子どもも活躍できるまちづくりについて

- ▶家族以上に地域が頼りになる時代となるのではないかと。  
働いているときから地域との関わりを持てるようにすることが必要。
- ▶行政ができるのはミニマムサービス。行政に代わって市民の健康づくりを担うのは、心ある人たちの動きと地域、NPO。
- ▶高齢化、人口減少に直面した福岡がそうした課題を正面に見据え、高齢者の力を上手に引き出すさまざまな取り組みを進めている、と情報発信されれば、アジアから先駆的な都市・福岡市をどんどん訪れるのではないかと。
- ▶高齢者の職務再設計が必要。若い人たちだけでなく、高齢者も働きやすい職場づくり。  
多様な働き方のできる環境を整え、力を引き出す工夫をすることが求められている。
- ▶高齢者問題への対策を組み入れた都市モデルをつくりあげることができれば、アジアの都市にとっては参考にしやすくなる。
- ▶日本は歳相応の行動を求める発想が強すぎる。高齢者をお客様扱いしすぎる社会の仕組みが問題。  
高齢者の持っている力を引き出し、活躍できる社会へ変えていかなくては。
- ▶シニア世代は、非常に強い責任感、忍耐力を含め能力が高く、企業内の流れをプラスに変える。
- ▶子どもは体験不足。家庭と地域の教育力を高める、具体的には、家の近所で親や同級生以外と交流する場がたくさんあり、地域であいさつをして、みんな子どもを育てるといような場をつくる必要がある。
- ▶子ども達が自分で考えて行動することや体験したことから学ぶことが大事。  
体験する機会が減ってきていると思うので、今後伸ばしてほしい。

## ●ユニバーサルシティ福岡の実現について

- ▶みんなが一緒に考えて問題意識を共有し、それを解決するためのきっかけをたくさん作れる社会に。
- ▶一人一人が「振れ幅」を広げる体験を積む工夫が必要。  
多様なことを「自分事」にしたときにユニバーサルシティが実現すると思う。
- ▶幸せを感じるもとは選択の自由や連帯意識。皆が気楽に生活できるまちになって欲しい。
- ▶障がい者への対応に多くの人が高い意識を持つようになればもっと住みやすいまちになる。  
ユニバーサルデザインには、「住民の心のデザイン」も含まれる。
- ▶男性になりきらないと職場でやっていけない女性。日本人になりきらないと日本で暮らしにくい外国人。  
大人に気を使いすぎる子ども。無理して向かい側に行かなくても、「自分は自分のままでいいのだ」と思える。  
これが、本当に優しい社会。
- ▶一部の人に任せておくのではなく、みんなで解決しなければならないということを学び合い、  
情報交換し合うような場所が必要なのではないか。
- ▶多様な立ち位置、性格、キャラクターの人が一緒に相手のことを思い、みんなが楽に生活できるまち。  
みんながありのままに知り合い、気軽に付き合い、肩の力を抜いてサポートできるまち。  
25年後の福岡はそうになって欲しい。

## ●よりよい都心づくりについて

- ▶街のデザインとは、味覚を含む五感で街全体が楽しめる環境をデザインすることであり、そのためにも美味しさやデザインされた美しさを楽しむ店が建ち並ぶストリートの魅力を創り出していくべき。
- ▶都市空間のデザインに関しては、鍼治療のような考え方で都市開発を誘導し、交通システムの整備と一体化して進めていくべき。
- ▶港と都心をつなぐ「風の道」が必要。
- ▶計画して新しく造るだけでなく、歴史的建造物を長く大事にし、生命を感じられるような場をつくることも必要。
- ▶単に博多駅—キャナル—天神という導線ができるだけでは、都心全体の盛り上がりにつながらない。周辺地域を取り込んだ開発が必要。
- ▶福岡の都心部内に、路線バスを軌道系交通並みの幹線輸送システムとするBRTを導入して、埠頭などを結んではどうでしょうか。BRTができれば都心部から埠頭へ人がすいすい行けるので、これまで以上に面白いエンターテインメントをやってもいいのでは。

## ●環境共生型の都市のあり方について

- ▶多様な自然環境の財産を活かして、いつでも環境教育が行える都市を目指してはどうか。
- ▶環境学習をしようと持ちかけるのではなく、農地を借りて野菜を育てると持ち帰れるというように、人の欲求を刺激する仕掛けとし、結果として地球のためになることが重要。
- ▶山の栄養分を含んだ水が生活用水として使われる。その排水を生きた水に再生して、博多湾に流れ込むようにする。そうやって人間による里海づくりを行っていくことが必要。
- ▶人間の排せつ物や食べ物ゴミなどをエネルギーをかけて処理するのは無駄。有機性廃棄物の循環システムをつくり、有機物のリサイクルを行うといい。
- ▶大規模な開発を行う場合に、同等以上の自然を近くに再生させることを義務付ける「環境オフセット制度」を福岡市が日本で初めて創設してはどうか。
- ▶畑を耕す、海で魚を捕まえるといったことが気軽にできる都市になれば、豊かなまちになる。
- ▶二酸化炭素排出量削減については、二重窓の設置により冷暖房によるエネルギー消費量を削減できる。家庭やオフィスなどにおいて、福岡市でやれることはある。



第2回  
「生物多様性とまちづくり」  
フォーラムの様様

## ●クリエイティブなまちや人材について

- ▶まちにつくる場がない。作品だけでなくつくる場が見えることで、人が集う。
- ▶作品を楽しむ市民の感性や感覚といった心を育てる場がない。心が育つ仕掛けが必要。
- ▶創作の現場では多くの才能が福岡から生まれている。クリエイターは育ちやすい環境だが、人材が流出している。表現を行う場が福岡には少ない。
- ▶農業などクリエイティブでない既存の産業を、面白くするために価値を変換するという、クリエイティブなことをやっているまちもある。クリエイティブは個々のテクニカルな話ではなく、今生きていることの価値を変換するようなことだと思う。
- ▶福岡は、地元のクリエイティブに対してリアクションが薄い。一方で、外で評価されたものは、ものすごく受け入れられる。田舎だから、判断基準がない。
- ▶福岡は東京に比べると制作予算が非常に少ないです。その分、アイデアで勝負するしかないからクリエイティブなジャンプができる素地があるのではないか。
- ▶居住性、利便性が高い都市には「クリエイティブクラス」と呼ばれる知識層が集まるとされており、福岡市は「創造都市」としても伸びていけるだろう。

## ●スポーツの幅広い活用について

- ▶アジアを市場としてみるのではなく、アジアの諸課題を解決していくというソーシャルビジネスの視点が必要。例えば、今、上海の親は、子供に協調性や人と仲良くやれる力を身につけさせたいと考えており、我々はスポーツでその課題解決に取り組んでいる。
- ▶サッカーで知られたマンチェスターのように、ホークスを一緒に盛り上げて、福岡の名前を世界に広げたい。
- ▶(一つのスポーツを一年中続けるのではなく)スポーツへの取組みをシーズン制にして、いろんなスポーツに携わる環境を作れたら、より素晴らしいまちになると思う。
- ▶スポーツツーリズムの推進。ホノルルマラソン、東京マラソンのような魅力的なスポーツイベントを持つことによってまちの存在感が高まりまちが潤う。
- ▶欧米は、まちがスポーツを育てるという文化がある。まちがスポーツを公共の財産として扱ってくれている。みんなですポーツチームを育てて欲しい。
- ▶失われた外遊びの代用としてのスポーツが、自ら考えて自立する子供たちを育てる。
- ▶福岡市に高校野球決勝が開ける球場を。
- ▶体罰やしごきでなく正しい指導法を持つ指導者が、明るく楽しくスポーツに取り組ませ、子どもたちの健全な成長につなげることが一番大切ではないか。
- ▶子ども達が、いつでもどこでも気軽にスポーツに関われる環境の整備が急務。

## ●おもてなしのまちづくりについて

- ▶お得感、特別感、オリジナリティーがあると、よそから来た人はいい。  
また、当日や前日に予約が出来る仕組みなど、お客様の利便性に応えることが必要。
- ▶そこにいけば博多のものが全部揃うような、名所となる「門前町」をつくりたい。
- ▶九州という島の玄関口である福岡市が、島全体の情報発信をできていないのは残念。
- ▶福岡に来てくださいと言うだけでなく、海外に飛び出して、  
現地の人と交流することが福岡の観光にとっては実は大事。
- ▶福岡市に住む一人ひとりの動きが大事。いらっしゃいとお客様をお迎えする、  
おもてなしのまち・福岡を育てていきたい。
- ▶福岡市民がどれだけまちを面白がっているかが大事。観光客のためというより、  
地域住民が主役になることが、ほかの地域の人々の旅心をくすぐる。
- ▶マナーの悪さや犯罪の多さが指摘されているが、それはまちへの無関心が生んだ結果だと思う。  
人と人がどんどんつながる場を提供することで、  
人の目が届き悪いことができない“ムラ”社会のような文化をつくっていきたい。
- ▶自転車のマナーなどの問題点があがっていましたが、意識が変わっていけば良いと思う。

## ●アジア・世界の中で、という視点について

- ▶22年前から続けている「アジア太平洋子ども会議」の卒業生が、国や地域で社会的に重要なポストに就いていく。  
福岡の子どもたちが対等に付き合えるよう、しっかりした教育をしておかなくてはならない。
- ▶福岡市は国際コンベンションシティとしてアクセス、コスト、周辺の自然環境の面から競争力がずばぬけて高い。  
国際会議誘致の営業能力を鍛えれば実績は確実に伸びる。
- ▶福岡が記憶に残るためにも、多くの人が多言語を話せる街づくりが進めば、アジアの競争の中で、  
小粒でもキラリと光る街になると思う。
- ▶グローバルな時代、様々な国と共存しコミュニケーションをとっていかなければならない。  
討論をし、自分の考えを他人にきちんと伝える能力を学校で育む必要がある。
- ▶語学力の高いまちとなるために、留学生の力を是非借りたい。  
英語だけで話すような授業や韓国にある英語村みたいなものが福岡にあっても良いと思う。
- ▶日本人は積極的にしゃべらないが、人の話をよく聞いて、まとめることはしっかり出来る。  
まとめることも大事な役割であり、日本の美德を活かせる。  
そういう意味で福岡は「アジアの交差点」みたいな形で果たせる役割があると思う。
- ▶福岡市は東京や大阪の都市に比べて外国人留学生の受け皿が少ない。
- ▶福岡は中国に最も近い都市。中国とアジアの交流の拠点になって欲しい。
- ▶自然環境の良さが保たれ、アジアと結びつくビジネスチャンスが豊富であれば、  
将来、転勤や転職で福岡を選びたいと思う人が増えるのではないかな。
- ▶求心力のある福岡市がアジアを取り込み強くなるのはいいが、国土の狭い日本だから、  
周辺地域をうまく使って成長する知恵が必要ではないかな。
- ▶「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」は大事な財産。イベント参加者へのフォローアップ、  
交流を継続することが、福岡市の多様化につながるのではないかな。

## ●多様な働き方や様々な挑戦の実現について

- ▶セーフティーネットも単に金銭的な支援だけでなく、職業訓練みたいな人と人とのコミュニケーションが大切。その一方で、チャレンジの芽をつぶさないような仕組みをどんどん作っていかないと、福岡がアジアの中でイニシアチブをとっていくのは難しい。
- ▶まずは若い人材を東京や大阪に輩出し、いずれ戻ってほしいというキャンペーンをやり、そういう生き方があることを示すのも、一つの方法。
- ▶今は日曜日でも夜も仕事がある時代。多様な支援をして、女性が生涯働ける社会、かつ女性が子どもを産める社会にしていくこと。それが、経済にも何にでも大きな影響があるということを、自治体だけでなく企業や私たち個人も認識してやっていく必要がある。
- ▶若者が集まってくるのは、何かできるかもというワクワク感があるから。若者が福岡でチャンスをつかみ、アジアに出て行ける仕掛けなど、行政が踏み込んで支援してもいい。
- ▶女性が子どもを産んでも仕事を続けていける街にするために、企業側も配慮する姿勢が必要である。社会的に女性の能力を生かしていかなくては。
- ▶福岡市を活性化するためには、女性の能力をいかに活用するかが鍵。今はITが発達しているので、会社を作らなくても個人事業主のネットワークで仕事ができる。そういう面を行政機関が支援するのもいいのではないかな。
- ▶音楽をはじめいろいろな分野で芽が出た人に、東京に行かなくても福岡でさらに活躍できるステージを提供できる受け皿をつくり、新陳代謝のいいまちにできればいい。

### 第7回 「人が仕事を生み、 仕事人が人を呼ぶ」 フォーラムの様

